

## 第52回金沢大学学長選考会議 議事概要

書面附議期間 令和2年3月17日（水）～3月24日（火）

出席者 國澤隆雄（議長），上村大輔，河田悌一，中西吉明，中村健一，林幸秀，矢部彰，村井淳志，青木健一，中村裕之，新田哲夫，森本章治，堀修，中村慎一，向智里，福森義宏

### 1 前回議事確認

第51回金沢大学学長選考会議 令和元年10月17日開催

書面附議の結果，以下のとおり承認された。

委員総数16のうち，回答 15，無回答 0 合計15（議長を除く委員数）

- ・承認する 15
- ・承認しない 0

### 協 議

#### （1）令和元年度における学長の業務執行の状況確認

山崎学長から，資料1「令和元年度 金沢大学の取組」により，令和元年度における学長の業務執行の状況が示され，書面附議の結果，委員から以下の意見が提出された。

#### [委員からの主な意見]

- 全学対応によりWPI（ナノ生命科学研究所）の研究推進を達成し，同研究所が世界のハブとして機能することを期待する。また，URAによる情報収集を活かして，福間氏を代表とする大型外部資金（ERATOやCRESTO，さらにはAmed）の獲得を目指して欲しい。
- 4研究科による分野融合型の卓越大学院プログラムは，まさに社会及び行政からの要求度が高い分野融合型の内容が見て取れ，結構である。
- 新学域，新設学類の計画も社会の要請に合致しており，重要な提案で実現を図って欲しい。
- 高大連携にも積極的であり，好感が持てる。
- 日露の研究者交流，WHOとのコラボレーションも特色があり，結構である。特にこの時期，ロシアから人材活用は的を得ており，推進すべきであろう。

- 後2年の任期であり，集大成の時期に来ていると判断できる。  
そのため，現在までに実施してきた一つ一つの改革を，参加する教職員が，継続して牽引してくれるように，自主性を重んじる推進体制に移行することが重要と思われる。
  
- 今後2年間の活動については，これまでの6年間の活動・実績に基づいてこそ可能な国大協副会長としてのリーダーシップや北陸地区の大学間連携推進等に最大限の力を発揮していただきたい。  
学内の運営については，細部は所掌の部局や部署を信頼してまかせる姿勢にシフトし，同時に，将来の大学執行部を担う人材の発掘・養成を位置付けていただきたい。
  
- 令和元年度の山崎学長の活躍はめざましいものがあつたと思う。特に融合学域先導科学類の設置構想を押し進めたことは，特筆すべきことである。また，卓越大学院プログラムの採択や若手研究者を増加させて大学全体の研究の基盤作りに貢献したことは評価できると思う。
  
- 学長の強いリーダーシップの下，6年間で金沢大学の大学改革が大きく前進し，目覚ましい成果があがっており，令和元年度においてもその成果が結実し着実に次の改革が進んでいる。今後の2年間も大学改革が進められるものと期待しており，我々も学長と共に努力していきたいと考える。  
次の改革を進めるに当たり，幅広く“情報の共有”と“意見の集約”を行い，学長・理事と各部局間での“相互理解”を促進することにより，全教職員が一丸となった改革推進を実現していただきたいと考える。
  
- 業務は着実に進展していると評価できる。新年度は執行部の顔ぶれが大きく変わることもあり，十分な目配りをお願いしたい。